

作品要旨:

- ・原作の流れから切り離れた完全番外編
- ・時系列としては、主人公機がアサヒ、ホノカ、シャッテのヴァンレイズとなっている時期
- ・コンセプトとしては、大きなイベントの間に挟まる息抜き回のイメージ
- ・シチュ属性としては、ギャグ、ヒロピン、洗脳・操り
- ・バトル描写は軽めで大丈夫です

登場キャラ(メイン)

- ・イヌイ・アサヒ
- ・シャッテ・ジュードヴェステン
- ・イヌイ・ホノカ
- ・LLオネネ、ボーゾックレディース(半オリ敵キャラ)

登場キャラ(主に描写するサブキャラ)

- ・ミリュー・ジュスト
- ・フローリア・フランク
- ・アマノミヤ・アヤメ
- ・その他版權参戦作品女性キャラ3-5名(応相談)

半オリキャラに関して

1:LLオネネ(れーれーおねね)

原作：激走戦隊カーレンジャー

戦隊怪人の1体。宇宙を荒らし廻る無法者の集団、ボーゾックでレディース暴走族を率いる。紫色を基調としたヒューマノイドタイプの女性宇宙人で、グラサン・サラシ・特攻服と古風な女暴走族風の格好をしている
族内の肩書は「ボーゾックレディースの女番長」

大人数で暴走行為をする暴走族本来のスタイルを大切に思っており、地球の人々を「暴走族なりきりハチマキ」で洗脳し、共に暴走するレディースの仲

間を増やそうと目論む。

なお、本人が暴走行為に用いるのは武器や装飾でカスタマイズした宇宙のママチャリ「流星号」、宇宙技術のおかげか本人が鍛えているからか、ママチャリでも自動車を振り切る速度や連続空中ジャンプなどの機動力を叩き出せる。

戦闘では、ママチャリによる暴走のほか、木刀のような打撃武器を使用する。

口調は一人称が「アタイ」「姐さん(レディース仲間に対して)」とはすっぱな女口調。実は甘いもの好きなど茶目っ気もある

【参考用に劇中のセリフ抜粋】

「ボーゾックレディースの女番長、走る凶器と恐れられたLLオネネってえのはアタイのことよ！」

「ボーゾックの原点はなんなんだい!? 走る仲間を増やすこと！ 一人より二人。二人より三人。大勢で走れば、楽しいぜ！ そうじゃないのかい？」

「暴走族！ なーりきりハチマキッ！」

「あらー、けっこうかわいいわ、結構タイプかも～」

「でも姐さんの走りにはついて来れないわよ、ハア～ッ！」

「赤信号みんなで走れば怖くない！」

※等身大の戦闘で戦隊に破れ、同作品の巨大化アイテムである芋長の芋羊羹を手に「こうなったら、本当は抹茶ケーキの方が好きなんだけど...ええい、芋羊羹だ...！」

LLオネネは上記原作要素を元に、小説内では以下のような立場

- ・主人公やスーパーロボットの所属する組織アルファオメガと敵対する宇宙人に雇われた傭兵的な存在

- ・休暇中のアルファオメガを攪乱する作戦として、女性パイロット達をレディースボーゾックへと洗脳し、スーパーロボットによる集団暴走行為を引き起こそうとしている

- ・パイロットに加え、艦長やオペレーターや整備員などの後方スタッフの女

性もレディースに変え、ある母艦(プトレマイオスかナデシコCかヒリュウ改かアークエンジェルあたり)を制圧、自身の流星号をデバイス代わりにレディース化ロボ軍団を指揮するスペースを追加してしまう

- ・原作では暴走族なりきりハチマキを一人一人手巻きしていたが、小説では身体の一部から連射する事で一度に大量の人数を洗脳できるようになった

2:ボーゾックレディース

- ・LLオネネに洗脳された女性たち。洗脳は一瞬で、白地に銀のプレートが付いた「暴走族なりきりハチマキ」を額に巻かれた瞬間に変貌してしまう。それまで着ていた服装の上に、それぞれのパーソナルカラーのハッピを着用し、キツイアイラインのケバケバしいメイクとなる。

- ・洗脳といっても、自我を抑圧されるというより、個性を残したままレディース仲間と無法に走り暴れ回ることを楽しむよう変容するイメージ。

- ・どんな女性でも常時ハイテンションで口調が荒々しくなり、高笑いしながら町を暴走する。乗っていた乗り物が壊れても今度は集団で走って暴れ回るなど筋金入りの集団暴走愛好家に変えられてしまう。

物理的にハチマキを取るとすぐ洗脳は解除される。また、LLオネネが倒されることで全員正気に戻る。レディース化していた間の記憶はうっすら覚えている程度。

- ・基本的にレディース化した時点で乗っていたものや手近にある乗り物を強奪して暴走行為を始める(原作では各種自転車や三輪車、一輪車など)。何故か自転車も大漁旗や漢字のロゴなど暴走族風の装飾がなされた状態になる。

上記基本要素に加え小説内では以下のような存在にする

- ・レディース化したパイロットやスタッフが乗るロボットや母艦も、大漁旗を付けたり般若や髑髏などの模様、「夜露死苦」や「愛羅武勇」などのヤンキー漢字のロゴがペイントされたレディース仕様となってしまう

- ・LLオネネの指示のまま、基地や市街地も構わず集団でロボを走り、跳ね飛び廻らせる。走りの一環で建物なども平気で壊してしまうが、暴走行為自体を楽しみたいLLオネネの意向で、一般市民や避難施設などを積極的に攻撃す

るといった行動は取らない

- ・LLオネネのことは「リーダー」「姐さん」と呼称し命令に従う
- ・暴れ回っている状況はシリアスというより状況を把握できない正気の主人公達がレディース化したキャラのはっちゃけ具合に普段とのギャップに驚くギャグ調でまとめてください

<話の前提(描写不要)>

- ・アルファオメガ基地、近頃は大きな襲撃もなく、スーパーロボット達もオーバーホールなどの充実した整備を進めており、パイロット達も久々の休暇を満喫している
- ・このため、強力なロボットの一部は緊急出撃が不可能な状況
- ・基地では、この期に様々な出自のパイロットや後方スタッフ達の交流を図ろうとイベントを企画しており、この日は女性メンバー向けの交流イベントが開催されていた。
- ・男性パイロット陣は、その日は基地で何も目ぼしいイベントが無いことから早々に基地の外へ遊びに出て不在なメンバーが多い

【小説本編プロット】

- ・様々な戦い(イベント戦闘)で疲労困憊していたアサヒ、久々の休暇で、街で買い物に付き合う約束をシャッテとホノカ双方と悪気なく取ってしまい、珍しくアサヒが気を回してくれたと思ったらいざ当日に3人で遊びに行くことになったと知って微妙に気まずい雰囲気になるシャッテとホノカ
- ・基地から出る道すがら、突然出現したママチャリに乗った宇宙人(LLオネネ)が、すれ違いざまにホノカを攫っていく。
- ・とんでもない速さに置いてかれる2人、やがて、護身用の武器を持った状態でアヤメとフローリアが敵対宇宙人の工作員が侵入したとアサヒ達を呼びに来た。

・凄まじい速度で逃走しアサヒ達を撒いたLLオネネが、人気の無い場所でママチャリを止め、ぐったりしていたホノカを抱き起こす。状況に混乱しつつも気丈なホノカを評価するLLオネネ。病弱そうだがその心意気は走り屋に相應しいと告げ、暴走族なりきりハチマキを取り出す。

・宇宙人が暴走族をやっていることに混乱し、さらにハチマキが何のための物か理解できず怯えるホノカだが、逃げられず暴走族なりきりハチマキを頭に巻かれてしまう。

・普段の大人しげな態度が一転しハイテンションなボーゾックレディースとなったホノカは、側に転がっていた自転車に跨り、LLオネネに続く形で暴走を始める

・ホノカと宇宙人を追って、基地のジープを調達して逃走先らしき町外れを探すアサヒ、シャッテ、アヤメ、フローリア。やがて、LLオネネやホノカが自転車で暴走し暴れ回る現場に出くわす。

・ホノカの変貌に驚愕するアサヒ、慌ててホノカの自転車の前に立ちはだかるが、邪魔だと跳ねられ転倒する。

・倒れたアサヒを尻目に、LLオネネやレディース達を静止しようと武器を構えていたシャッテ達3人はオネネに目をつけられ、お前達も一緒に走れと逆襲され、オネネの身体から射出された暴走族なりきりハチマキが命中し自動で巻きつけられ、ボーゾックレディースになってしまう。

・洗脳されたシャッテやホノカ達は、LLオネネが本来の目的地としていたアルファオメガの基地の場所を伝える。オネネは襲撃の為にシャッテ達を率いて出発する。

・呆然としていたアサヒだが、基地が危ういとして戻ろうとするが、ジープはレディース化したシャッテ達が乗って行ってしまい、無謀だが走って基地へ急ぐ。

・アサヒは息も絶え絶えに急ぎ帰ってきたが、基地は大パニックとなっていた。女性メンバーの交流イベントに殴り込んだLLオネネにより大量の女性がボーゾックレディースと化し、パイロットは動かせるロボに乗って暴走行為を始めていた。アヤメとフローリア、また他のソリスの女性パイロットも、暴走族仕様になったメルスギアで暴れている。

・整備員でもミリューを始めとするレディース化した女性整備員が、工具で

基地設備やロボットの整備箇所を滅茶苦茶にしている。

・やがて、基地に係留されていた母艦にロボを持たないレディースメンバーと共に殴り込むLLオネネ。男性スタッフは艦外に放り出され、ブリッジに追い詰められた女性艦長やクルーに暴走族なりきりハチマキを見せ、お前達もボーゾックレディースになれと告げるLLオネネ。突然で何が起きたのか理解できず戸惑う彼女らもオネネやレディース達にハチマキを巻かれ、レディース化してしまう。

・母艦1隻を乗っ取ったLLオネネは、同艦の上部に流星号を接続した神輿のような指揮スペースを作り、レディース化したパイロットが操るロボを収容し、強引に基地から脱出する。基地では慌てて外出していたパイロット達を招集するが、大規模整備やLLオネネの襲撃による損傷で出撃できないスーパーロボットばかりで手詰まりになる。・アサヒ達はプトレマイオスのブリッジに通信で止まるよう呼びかけるが、すっかり暴走族になった女艦長やブリッジクルーなどが笑いながら罵倒で返答し、取り逃してしまう。

・一方、ヴァンレイズのみ無事で残っていた、とっさにコックピットへ乗り込もうとするアサヒだが、中にはレディース化したシャッテとホノカがどうにか動かそうとしている最中だった。

・2人に睨まれながらも、唯一動かせるスーパーロボットとしてヴァンレイズを出現させるアサヒ。だが、洗脳されたままのシャッテやホノカが勝手に機体の制御を奪って暴走しようとし、格好良く発進したと思ったら制御不能になりアサヒは2人に走り屋になりたがらないヘタレと罵られ、散々に機体を振り回されながらどうにかLLオネネの暴れている市街地へ飛んで行く。

・その頃市街地では、どこからか装備したのかクラクションや大音量の音楽を鳴らしたレディース化パイロットの操るロボット軍団が集団で走ったり飛行したりペイントガンで落書きしたりの暴走行為を楽しみ、その余波で建物が損壊していく地獄絵図となっていた。

・半ば制御不能状態でその中へ突っ込んでいくヴァンレイズ。しかし、数の暴力でろくに動けないまま袋叩きにされ、吹っ飛ばされひっくり返る。

・その衝撃で頭を打ち、ハチマキが外れて正気に戻るシャッテ。ハチマキを外せば正気に戻ると理解したアサヒは、シャッテと2人でホノカを取り押さえ、罵倒されつつ機体も再び制御不能になりビルに突っ込むもどうにかハチ

マキを外し正気に戻す。

- ・アサヒはボーゾックレディースになっていた間の事を半ば忘れているシャッテとホノカの2人に状況を説明し、ヴァンレイズを再起動する。一人一人を正気に戻していくには戦力が圧倒的に足らず、コントロールをしているLLオネネを倒す事のみを決める。

- ・不意打ち気味にLLオネネの指揮スペースを切り捨てるヴァンレイズ。コントロールを失ったボーゾックレディース達の操縦ロボやプトレマイオスは一斉に沈黙し動きを止める。

- ・止むを得ず、原作と同様に芋羊羹を食べ、ヴァンレイズと同サイズまで巨大化するLLオネネ。木刀のような鈍器を振り回して抵抗するが、人質としても機能していた洗脳パイロット達がない状況では勝負にならず、ヴァンレイズに一閃され消滅する。

- ・一斉にハチマキやメイク、族仕様のロボのデコレーションなどが消滅し、正気に戻る女性パイロット達。

- ・これで一件落着と思ったアサヒ達だったが、遊びに行く筈だった街がボロボロで、人死にこそ出なかったもののスーパーロボットも徴用した復興活動が必要と基地からの無線で知り、トホホと嘆く

以上プロットとなります